

事故事例から見た経営・生活等への影響と 外国人向け安全対策

農林水産省補助事業
令和 4年度持続的生産強化対策事業
(農作業安全総合対策推進)
報告書より

事故事例・事故防止 14のキーワード

ー 農作業事故原因・影響分析調査 ー

あの時こうしていれば を未然に防ぐ

農作業安全総合推進協議会
(一社) 全国農業改良普及支援協会
普及参事兼情報部長 齊藤 総幸

この度、農作業安全推進の一環で、事故の原因に加え、影響がどのように及ぶのか調査分析を実施しました。

実際の事故当事者や関係者から聞き取り調査を行い、その結果として、医療費や修繕費など事故による直接的な支出としての影響に加え、計画していた新作物栽培を取りやめたり、複数年にわたる自給飼料の生産減から収益を大きく損なうなど、多様な影響が確認されました。

なかでも、ほぼ全員の事故当事者が、もしあの時〇〇していたらといった反省を述べていたのが印象的であり、これらは事故防止の「キーワード」として有効であり、事故防止に向けて組織的に取り組んでいる集落営農等法人の心がける「キーワード」とともに、多くの農業者や農業関係者に伝えるべきであろうと考え、この事故防止啓発資料をとりまとめました。

農業者が事故を「自分事」として考え、対策をとってもらえるよう伝えてほしい14点です。

次の事故当事者にならないために、事故防止に努めるポイントとして様々な機会を通して農業者の皆さんで共有ください。

目 次

1	事故事例調査の目的 対象と結果の概要	1ページ
2	事故当事者が感じた6つのキーワード	9
3	集落営農法人代表等が取り組んでいる8つの キーワード	16
4	事故事例	26

1 事故事例調査の目的 対象と結果の概要

事故事例調査の目的と結果利用上の前提

事故事例調査の目的

農作業事故の原因に加え、影響がどのように及ぶかを整理するため、実際に事故に遭われた当事者や関係者から調査を行うこととし、経営部門、死傷区分、事故の種類等について幅広く協力を得て様々な影響を確認し、農業者や関係者に対する啓発資料を提示することとしました。

調査対象者について、調査に御協力をいただいたのは、死亡事故を含めて経営継続ができた事例のみでした。

以下の情報は、このことを前提として活用するようお願いします。

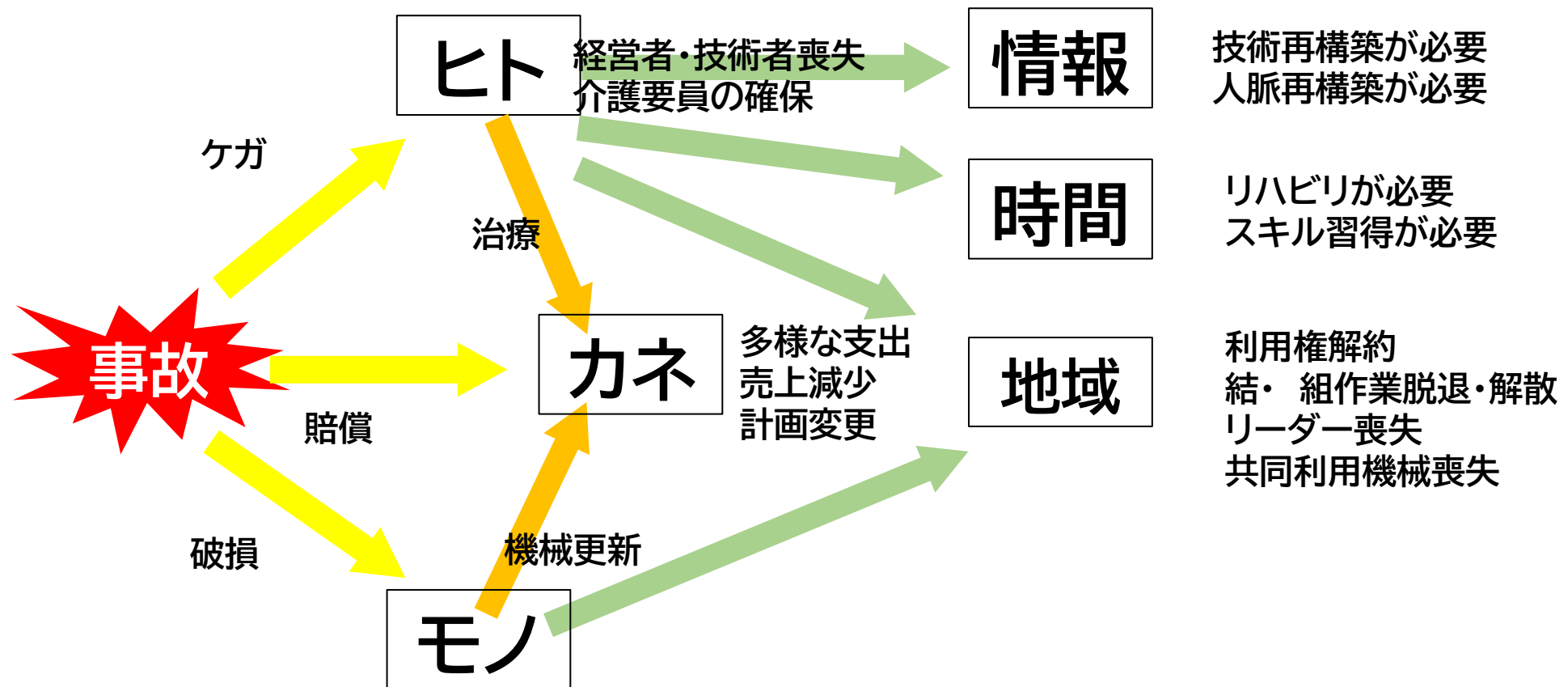
事故事例調査対象の概要

調査件数	16事例(5県)
部門別	主穀作 5(内 集落営農法人等 4 内2法人は事故無) 野菜 2、果樹 3、茶 1、さとうきび 1 畜産 4
事故の死傷別	死亡事故 1、重症 8、軽傷 5
事故要因	農業機械 8、施設内 1、高所作業 2、 作業器具等 3

※ 集落営農法人等については、事故発生による地域への影響の大きさや、日頃の従事者に対する安全指導状況と効果を確認するため調査対象に入れた。

事故影響の波及イメージ

経営の5要素(ヒト、モノ、カネ、情報、時間) + 地域に対して及びます



事故発生時の影響



制御可能な流れ



制御できない流れ

事故事例調査結果の概要①

金銭的負担

売上高減少

最大1,955万円

自給飼料減等による乳量低下等1955万円、けが以降の茶収穫中止1802万円、さとうきびの管理作業不備50万円

予定外の支出

最大4,000万円

主な内容：自給飼料生産減産分の購入飼料代、代替労働力・ヘルパー賃金、家族による介護費等、上肢装具費、（オートマ車購入）

家計・家族への影響

他産業従事家族が急きょ就農し農外収入が無くなった
その他主な内容：介護・看病に時間が取られる、大学校通学中断

経営計画への影響

作業の単純化が必要になったため、新作物導入を中止した
障害者であっても作業できる環境整備が必要になった

事故事例調査結果の概要②

人

労働力

入院期間

数日の通院～リハビリ含めて4か月間入院入所

後遺症

無し～ケガ部位以外のしびれ(数か月から継続中)～片腕欠損

代替者

家族、親戚、シルバー人材、ヘルパーによる対応

技術的
ノウハウ

人脈等情報

承継に時間と手間がかかる
死亡事例ではこれらが断絶された

事故事例調査結果の概要③

地域への影響

今回の調査事例では確認できなかった

想定される
影響

- ・ 地域の担い手であった当事者から借地・利用権等の解約があり、場合によっては耕作放棄地が増加
- ・ 結・共同作業ができなくなり、場合によっては、廃業の連鎖（今回の事例では軽傷や、けがとリハビリ期間が共同作業の時期とずれたため影響が無かった）
- ・ リーダー的存在が当事者である場合、地域のリーダーが不在になる

事後対策

- ・ ノウハウやヒヤリハットの共有（従事者、同業者）
- ・ 機械の更新、安全装置の設置、軽労化装置の導入、安全な器具への変更
- ・ 朝礼の実施、休憩の徹底、ラジオ体操の実施、空調服の貸与
- ・ 労災保険・傷害保険の加入・見直し

事故事例調査結果の概要④

影響の長期化・永久化

今回の調査事例では確認できなかった事項も含む(下線:事例確認事項)

長期化する 影響

- ・ 重大事故により経営内組作業の中止(飼料作物収穫調製)
- ・ けがをカバーすることによる身体の他の部位の痛み
- ・ 果樹経営の指切傷による誘引作業等指先作業の中止
- ・ ドローン事故(未遂)に遭ったオペレータが委縮して操作不能

永久化する 影響

- ・ 死亡事故による、後継者の離職就農、情報の断裂
- ・ 営農再開が不可能な重篤事故・死亡事故に伴い結・共同作業の分断(調査事例外)
- ・ 重大事故による長期計画中止(新規作物導入)

2 事故当事者が感じた6つのキーワード

予想以上に～
もしあのとき～していたら

事故当事者が感じたキーワード①

予想以上に～
もしあのとき～していたら

キーワード

何としても生き残る



危機に直面した時、この考えを持てるかが明暗を分ける

- ・ 酪農・乳製品販売会社の経営者が当事者になった事例
ロールバーラーに巻き込まれた事故で右腕を切断
自ら、残った作業着の腕部分で止血、妻に救急車要請の電話
切断された腕の再接着は早々に断念し早期復帰を選択(全治約1か月)
- ・ 事故後、牧場内を点検し、従業員とともに障害者であっても作業できる環境づくりに取り組む
- ・ 飼料高騰など経営環境が悪化した現状に対して、何としても生き残る信念で冷静に対応



○ けがを切っ掛けに、経営のデザインを再検討する機会ととらえ、安全を重視した作業環境の整備が必要

○ 当然、機械の修理点検の徹底と、トラブル時にはエンジンを確実に停止し事故を未然に防止することが最も重要

事故当事者が感じたキーワード②

予想以上に～
もしあのとき～していたら

キーワード

予想以上の出費だった



予想外に要したお金は「家族による介護」に伴う旅費や宿泊費



- ・ 大きなケガを負った場合、都市部の病院に搬送されるケースが多い
- ・ 事例では、野菜掘り取り機に挟まれた事故により、両腕を骨折等
- ・ 遠方の病院での約1か月間の入院と3か月間のリハビリ生活
- ・ 入院やリハビリ期間中は家族のサポートが必要なため、二重生活となり、家族の旅費や宿泊費が発生（合計115万円）



○ 本人の医療費は、高額療養費制度によりカバーできるが家族による支援に係る費用は全額自己負担となることから、万が一に備え、諸経費を含めた費用をカバーする保険等への加入が必要

○ 当然、作業機には必要な安全装置の装着等により、事故を未然に防止することが最も重要

キーワード

危ないと思った点をすぐに直していたら

事故当事者の多くに「もし(if)」がある



- ・ 茶の事例では、以前から袋取り式の摘採機をコンテナ式に代えなければと考えていた。
- ・ 袋取りでは、収穫した茶葉の袋をトラックの荷台に人力で積上げるために体の負担が大きい。
- ・ 事故は、梅雨の時期、普段より水分が多く含まれ、袋の重量が通常の2倍の40kgほどに重くなったが、荒茶加工の1ロット分を急いで摘採し、無理な作業で肘に負担がかかり靱帯損傷(全治3か月)。
その後の収穫を断念し、対前年比1,802万円の売り上げ減。



○ リスク軽減の取組は計画的に、必要と思ったら速やかな対応が重要

○ 当然、日頃の機械の点検で異常の発見・修繕と、安全装具やアシストスーツの着用など安全や健康第一の行動で、事故を未然に防止することが最も重要

事故当事者が感じたキーワード④

予想以上に～
もしあのとき～していたら

キーワード

早めに作業を切り上げていたら



疲れを押して作業を続けた結果、収穫期間の終盤に事故発生

- ・ 大型野菜経営(キャベツ等)で、高齢の従事者が大型機械作業
- ・ 事例では、疲れを押して長時間のトラクターによる耕起作業を終えた帰路、農道から脱輪し、転落した際に左足首を骨折(2週間の入院)
- ・ 疲れによる集中力の欠如・ハンドル操作ミス、速度超過が原因



14 疲れたイメージ



○ 事故当事者は「時間に追われて作業をしない」、「一連の作業の終わりが要注意」と反省、作業の区切りは体調を最優先することが重要

○ 当然、早め早めの休憩をとること、作業者同士でお互いの体調の確認や声掛けにより事故を未然に防止することが最も重要

キーワード

近くに人がいなかったら



スマホを持っても、両手が使えない事故もある



- ・ さとうきびの事例では、調苗機(苗用にさとうきびを切断する機械)のカッターで右腕を切断(3週間の入院)
- ・ 事故当時たまたま近くに人がいたことで迅速に止血・救急車要請
- ・ 事故当事者が基本的な止血法を理解していたことで、迅速な止血につながった。



○ 単独作業の場合、スマホのGPS機能の活用や、家族等の目に触れる所にスケジュールを掲示するなど、万が一の場合でも早期発見につながる工夫が必要

○ 当然、作業機の危険個所から目を離さないなど、事故を未然に防止することが最も重要

キーワード

もし家族による代替がなかったら



畜産など毎日の作業が必要な部門は、代替者の確保がまったなし



- ・ 酪農では、搾乳や給餌など毎日の作業が必ず発生
- ・ 事例では、地下式サイロへの転落により両足骨折(全治2か月)し、経営主が作業に従事できなくなった。
- ・ 幸い息子が農業大学卒業目前というタイミングであったため、労働力を補うことができた。
- ・ 仮に、息子が就農できなければ、ヘルパーを雇う必要があり、440万円の出費につながった可能性(廃業していた可能性も)



○ 日頃から作業内容のリスト化やタイムテーブルの共有化など、家族により代替しやすい環境整備が重要

○ 地下式サイロ周辺の滑り止めや柵の設置、ホイスのスイッチを安全な位置に配置することにより、事故を未然に防止することが最も重要

3 集落営農法人代表等が取り組んでいる8つのキーワード

集落営農法人代表者に対する調査の経緯

集落営農組織は全国で14,364、このうち法人は5,694と、農業の重要な担い手である。

(令和4年度集落営農実態調査(令和4年2月1日農林水産省調べ)より)

一方、法人以外の集落営農組織は、指揮命令系が不明瞭であるなど安全対策や事故が起きた際の対策が脆弱と考えられる。

そこで、集落営農法人に対する安全対策や万が一への備え等の調査を行った結果、法人以外の集落営農組織のほか個別経営の農業者にも重要な以下のキーワードを得た。

集落営農法人代表等が取り組んでいるキーワード

キーワード⑦

事故ゼロが一番の低コスト

- ・ 土地改良事業の工事委員長の経験から、建設業の事故ゼロの取組を目の当たりにして重要性を痛感。
- ・ 集落営農法人としても重点的に取り組む。

集落営農法人理事長が熱心に訴えていました。様々な機会にも目にする言葉でもあります。

「**事故によるコスト(=∞) > 事故防止のコスト**」であり、事故防止のコストはこのキーワード集の「もし」に対するまさに保険であり安心材料です。

この法人では、労災保険のほか、全従業員向け傷害保険にも加入し、そのコスト約23万円は**偉大なる無駄なコストになることが喜び**であるとのことでした。

労災不認定の事例もあり

集落営農法人代表等が取り組んでいるキーワード

キーワード⑧

集落営農の主たる担い手：けがを すると地域に迷惑をかける

- ・ 地域の担い手となった以上、けがで休むことが自分だけでは済まないことを自覚。
- ・ 地域に迷惑をかけたくない一心で事故防止に取り組む。

集落営農は、地域にある資源を活用して効率的な営農を計画・実行することを主目的としますが、多くは担い手が潤沢に確保できていない状況にあります。

このため、主たる担い手が作業から離脱を余儀なくされるけがを負うと、地域全体の営農に影響を及ぼし、当初掲げた集落営農像が実現できなくなることに直結します。

中でも農作業死亡事故の多くが高齢者であり、高齢者が担い手になっている場合は事故の重大さを集落全体で認識しておく必要があります。軽々に世代交代を推進できない状況にある場合がほとんどであり、「**迷惑をかける**」→「**事故を隠す**」ことにならないように、ヒヤリハットの共有や危険箇所の改修など、「安全」を集落営農の第一に取り組んでください。

集落営農法人代表等が行っているキーワード

キーワード⑨

急ぐ、焦るは事故の元

- ・ 従業員に対して焦らせないことが重要。
- ・ 天候も考慮し、無理の無い作業スケジュールを組むことで、事故防止につながる。
- ・ プレッシャーはメンタル面からも要注意。



この言葉もいくつかの法人で共通的に聞きました。

農業用機械の操作はもとより、収穫した米の輸送時、フレコンバックが空になった状態での輸送など様々な場面で危険を感じることが起きていました。

特に従事者に指示をする立場としては、ひとりの小さなトラブルが全体の作業に影響を及ぼすため、いかに円滑に全体を動かすかが重要です。

荷を満載したトラックでカーブを曲がる際は一段と減速するようになど、非常に詳細な指示をする様子も聞きました。

経営者ご本人の経験談によると、**プレッシャーは体だけではなく心も痛めることにもなる**と注意喚起されていました。

集落営農法人代表等が取り組んでいるキーワード

キーワード⑩

リスクを先に減らす



- ・ 繁忙期の終わり掛けや機械の想定使用年数の終わり掛けに機械の故障や事故が起きやすいとの経験則から、先手先手に点検・整備や更新をしてリスクを削減。

事件事例では、以前から更新しなければと思っていたなど、何らかの異変を感じています。

事故ゼロが最大の低コストだと言う集落営農法人の代表者は、「**リスクが事故につながるか否かは、想像力が必要**」とも言っています。経験に裏打ちされた想像力と判断力がリスクをあぶり出し、未然に防ぐ行動につながっているようです。

GAPの取組では、経験というブラックボックスを文書化することで、リスクの回避、何かが発生した場合の対処方法を表示するなど、**経験値の共有化**にもつながっています。

リスク回避にはGAPの取組、特に産地を単位とした**団体認証が経験値をカバー**することにつながるようです。

集落営農法人代表等が行っているキーワード

15 正しい作業服装



キーワード⑪

ヒヤリハットを同業者と共有

- ・ G.A.P.(農業生産工程管理)の団体認証に取り組み、構成員同士がヒヤリハット事例を共有化し、安全対策に活用。
- ・ **ヒヤリハットの共有は恥ずかしいことではない**と全構成員間が理解。



GAPの団体認証を取得している団体のメンバーからの発言でした。

ヒヤリハットの共有化はGAPの取組としても重要ですが、仕事終わりに作業日誌に記帳する際にはどうしても忘れやすい。そこで必要なことはスマホから入力できるようにするとともに、作業日誌にヒヤリハットを記載する項目をつくり、**確実に集められるように工夫**していました。

また、作業に行く際は、スマホのアプリから危険を知らせる通知が表示されるようにして、必ず気を付けるように、またどうしても難しいポイント、例えば狭い農道から水田への進入路が狭い箇所などでは、ベテランが担当するなど、危機回避につなげていました。

集落営農法人代表等が行っているキーワード

キーワード⑫

気づかないことを教えて気づかせることが重要

- ・ 経験の浅い従事者は経験者からみて危ないことを平気で行う。
- ・ 作業現場を巡回しよく観察して注意点を理解させることが重要。



回答が否定形にならない質問・投げかけが重要

我慢強い人、標準的な優しさのある人に限って、否定形の回答は言いにくいと考える傾向にあるとのこと。特に熱中症など初めて経験する症状については、本当に大丈夫と思ってしまうこともあるようです。

本音が言える問いかけを考えてみましょう。

Q「暑くないか」 A「・・・大丈夫です」 より Q「私も暑いから休もう」 A「はい」

任意組合は無限責任も

集落営農法人代表等が取り組んでいるキーワード

キーワード⑬

作業前にみんなでラジオ体操をする

- ・ 水稻作業委託者に納める飯米向けなど紙袋の扱いが大量にあり、それが主な原因でぎっくり腰が多発。
- ・ ラジオ体操や注意喚起、リフターなど軽労化装置の導入が効果的。
- ・ 当日の安全確認など意見交換を行うきっかけにもなる。



米麦等の主穀作経営は機械化が進み、重いモノを手作業で移動することは少なくなっています。しかし、委託者・地主への飯米や直売ではどうしても30kgの紙袋での扱いが発生します。また、ロータリーの爪など地面に置いてある重いモノを移動する作業も随所にあり、そのような場合はフォークリフトを使用するまでもないと考えて、無理な姿勢で腰背部を痛めることがあります。

400ha以上の大規模経営では、事務職員が米の直売対応をすることもあり、リフターを有効に活用していました。

ラジオ体操は象徴的な取組でしたが、職員全体でギックリ腰が身近な存在と認識することにつながっている様子でした。

集落営農法人代表等が行っているキーワード

キーワード⑭

外部の人も含めて安全使用講習会を開催

- ・ 草刈を地域の人に任せていたり、法人従事者以外が作業に参加する法人では、地域の人たちも含めて農業機械安全使用講習会を開催し、事故防止に努めている。
- ・ **安全にできる「だろう」が事故を誘発。**



ほかのキーワードともかぶることもありますが、経験値の多少により危険に接近してしまうか否かがあるようです。

刈払い機は様々な場面で安易に使われているのを目にしますが、危険性を十分認識しなければならない機械です。

それに対して、あまりにも身近に存在するので、安易に使ってしまう。ベテラン作業員から見ると、「安全にできるだろう」の考えが発動され、注意する場面をスルーしてしまう。

自分基準ではなく、実作業員基準に視線を落とし、せめて年に一度は安全講習会の開催が必要と思われます。

4 事故事例

キーワード 6事例

事故事例① 酪農 転落事故

事故当時の経営概要

当事者 47歳 労働力 家族2名

経営規模:乳牛70頭、飼料畑5ha

事故内容

サイレージ取り出し作業中地下式サイロ(3m、ほぼカラの状態)に転落

事故原因

サイロ周りはコンクリートでコテ仕上げのため滑りやすさあり。
周囲は霜で長ぐつの底にもついていて滑りやすかった。
サイロ横に移動してあるホイストがサイロ上部にあった。

ケガ状況

腰骨(腸骨)、左大腿骨複雑骨折

回復状況

入院期間:60日、リハビリ60日 ほぼ通常の生活が可能



損害

ヒト

農大2年生の長男が代替
補完労力としてヘルパーを合計20日利用

モノ

物損無し

カネ

事故に関する金銭的影響:ヘルパー利用料金、入院・リハビリ、家族の支援などで影響あり。

時間情報

妻が農場管理について一通り理解していたため、円滑に引き継げた。

地域

共同作業は飼料作物栽培について実施しており、長男が代替できた。

リカバリー内容

長男が卒業間近でほぼ単位習得済だったこと、前年にフリーストール牛舎、ミルキングパララーなどを整備していたため、奇跡的に息子と経営主妻で乗り切れた。

事故事例② 酪農 機械はさまれ事故

事故当時の経営概要

当事者 65歳 労働力 家族2名、従業員1名

経営規模:乳牛42頭、飼料畑5ha

事故内容

コーンハーベスター(1条:タカキタ、PTO・3点リンクでトラクタ装着)で作業中、左第2指が挟まれた

事故原因

デントコーンの収穫作業中、詰まりが多くなったため、アッパーロールの隙間調整を行っていた。

ケガ状況 回復状況

左第2指 第2関節から部分断裂(屈筋腱損傷)
入院期間:3日 軽度の障害が残るが、作業上影響は無し



損害

ヒト

事故当事者は数日間仕事を離れたが、経営内で補完できた。

モノ

物損無し

カネ

事故に関する金銭的影響:保険適用以外では、経営者から見舞金を支払った。(金額は未回答の意向)

時間 情報

対外的対応は事故当事者ではない経営者が行っており、特に問題は無い。

地域

特に問題は無い(飼料生産を共同で行う場合は影響が大きい)

リカバリー内容

家族労働力は十分にあり、日常の作業に支障は無かった。技術的判断・指示は事故当事者ではない経営者が行っており、当事者の持つノウハウも経営者が同レベルで持っていることから問題は無かった。

事故当時の経営概要 法人
 当事者 62歳 労働力 家族4名、従業員3名
 経営規模:畑9.6ha(キャベツ)

事故事例③ キャベツ 横転事故

事故内容

トラクタ43ps、安全フレームあり(ロータリー装着)で作業場に移動中、脱輪し横転

事故原因

キャベツの圃場管理作業(周辺の草刈り等)終了後、トラクタで作業場に移動中、農道(未舗装・轍あり、右に山、左が崖)左カーブで左崖に脱輪し横転(シートベルト未装着)。
 疲労による集中力の欠如、ハンドル操作ミス、速度超過

ケガ状況 回復状況

左くるぶし骨折
 入院期間: 2週間 ギプス外し、リハビリなど



損害

ヒト

労働力は十分あるので問題無し

モノ

トラクタの部分的修理

カネ

トラクタ引き上げ費用等
 病院が遠隔地であり、家族による見舞いが
 予想以上の負担になった。

時間
情報

特に無し(経営主の父であり技術
 的経営的情報は伝達済み)

地域

特に無し(同業者の共同作業は無
 し。地域での役職無し)

リカバリー内容

ヒヤリハットの事例を社内で共有できるように再度徹底した。山間地に畑が点在していることから、時間に余裕のある時に農道の整備を行っている。狭い農林道や傾斜がきつい場合は、ベテランかつ若手の従事者が担当するなど役割分担を整理した。

事故事例④ じゃがいも 機械巻き込まれ事故

事故内容

トラクターけん引式のじゃがいも掘り取り機(DIGGER)に手を巻き込まれる

事故原因

トラクターけん引式のじゃがいも掘り取り機(DIGGER)を走らせつつ歩いて操作中、つまづいた拍子に機械に左手をついて、右手がロールに触った瞬間に巻き込まれる。

ケガ状況 回復状況

両腕・顔裂傷など

入院期間:2か月 リハビリ(病院近くの施設から週4日通院)

現在では両手ともに動く



損害

ヒト

事故発生年に親戚などによる応援

モノ

掘り取り機の修理費(推計)20万円。ハーベスターの購入(550万円 半額補助 7年リース)

カネ

作業手伝い等に対する賃金(10万円)・まかない費。リハビリ期間の二重生活による掛かり増し経費。入院費等の工面のため、保険の解約や銀行からの借入等。

時間 情報

特に問題無し(期間は要したが回復したことから)

地域

特に無し(組作業は無く、地域の役職にも影響無し)

リカバリー内容

家族の協力によるリハビリ

キーワード 4事例

事故事例⑤ さとうきび 機械巻き込まれ事故

事故当時の経営概要

当事者 58歳 労働力 家族2名

経営規模:畑1ha(さとうきび)

事故内容

さとうきびほ場でさとうきびの調苗作業中に調苗機に誤って右腕が引き込まれる

事故原因

調苗機で苗づくり作業を行う際、差し込みすぎた。
作業が1週間続き、疲労を感じていた。疲労による注意不足、焦り。

ケガ状況 回復状況

右腕切断(肘付近)
入院期間: 17日間 + 通院(その間ホテル滞在) 今後義肢装着予定

3



損害

ヒト

さとうきび農家による応援
1人×40日

モノ

特になし

カネ

看病等による出費(沖縄便航空券・通しのホテル代等)。保険:一般の生命保険。
事故発生当時の売上金額:前年比3~4割減。

時間
情報

入院期間も短く、特になし

地域

特になし:町会議員を継続

リカバリー内容

オートマ車導入(200万円)。栽培品目をさとうきび単作で維持、豆類を導入する考えであったものを断念。

事故事例⑥ 酪農 機械はさまれ事故

事故当時の経営概要

当事者 71歳 労働力 家族3名、従業員4名

経営規模:乳牛300頭、飼料畑20ha

事故内容

ロールバーラーのトワインに腕が巻き付けられる

事故原因

牧草畑でトワインの巻き付け中にトワインが切れたため、ロールバーラーに乗り、左のトワインに注意していたところ、右腕がロールに巻きこまれる。

ケガ状況 回復状況

右腕切断(上腕部中位)

入院期間:約4週間 高いところに上れなくなった、バランスが悪くなったなどの弊害あり

6



損害

ヒト

技能実習生を3名受入れ

モノ

ロールバーラーの修繕費

カネ

保険:一般の生命保険 労災は経営者のため適用ならず。社保非対応。ロールバーラー修繕費を含め4,000万円の投資。

時間 情報

病院が近く、当初から意識はしっかりしていたので、入院中・退院後ともに指示は可能であった。

地域

特になし:借地は維持

リカバリー内容

外国人技能実習生1人を連れて歩き、改善点を説明し、実行させている(1名増員)。ケガにより、いったん立ち止まり、考える時間を得た。何が何でも生き残るという信念を持つようになった。 ディスクハロー+播種を1度に作業できるように改善。

キーワード 3事例

事故事例⑦ 茶園 無理な作業による筋挫傷事故

事故当時の経営概要

当事者 36歳 労働力 家族3名

経営規模:茶畑7.5ha

事故内容

収穫物をトラックへの積み替え作業をする時、投げるように積み込み、その際、肘が伸び、痛める

事故原因

雨により含水分30%程度(茶葉内部ではなく水滴としての水分)、と重くなっていた(通常の2倍の40kg程度)。1ライン500kg程度を速やかに工場搬入する必要があり、急いで収穫～トラックへの積み替え作業中、無理な作業で肘に負担がかかる。

ケガ状況

左肘靱帯損傷 2か月間通院(整骨院)

回復状況

後遺症:肩痛が残っている(肘をかばうため)



損害

ヒト

労働力の補完:特に必要なかった。

モノ

特になし

カネ

事故に関する金銭的影響:通院のみであり、保険適用で大きな影響無し。売上金額:対前年比約1800万円減(相場の影響も大)。

時間
情報

特になし(身体的損傷のみで技術的・経営的には実行・指示可能)

地域

特になし(地域活動に継続して参画)

リカバリー内容

摘採機を新規導入:袋どり方式→コンテナ式(約1000万円の投資)。
親戚等の茶畑を経営に組み入れる(450a→750a)。 法人化(事故後3年後)。

事故事例⑧ 法人 水稻・そば・六条大麦・大豆 強打事故・落下事故等

事故内容

1. 頭上の突起物に頭部を強打 2. 脚立からの落下 3. 鎌、カッターでの切傷

事故原因

1. については、乾燥調製施設において、荷物を持ち上げる際に頭上の突起物(トラ柄で危険箇所明示)に頭部を強打し裂傷。

ケガ状況 回復状況

1. の状況→3針縫合
 2. の状況→大きなけがはなし

損害

ヒト

特になし

モノ

特になし

カネ

特になし(加入していた労災、JA傷害保険により対応)

時間 情報

特になし(経営的・技術的には当事者以外の役員3名が対応)

地域

特になし

リカバリー内容

事故防止対策として、①事故発生時の手順書明示 ②作業時には、各自に救急箱を持参 ③ヒヤリハット事例を地図アプリ(アグリノート)と簿冊で共有 等



事故事例⑨ 集落営農法人 水稻・そば・麦・大豆 腰痛

事故内容

ぎっくり腰、腰背痛

事故原因

小作地の飯米用として、個袋(30kg)が以前は5,000袋→現在でも約1,000袋程度は扱う。その他、小麦(30kg)150袋。計量器からパレットまで、約10mの移動(床面からの持ち上げ時に腰背部にかなりの負担)、その他、ロータリーのツメ部(複数梱包)など重量物の移動(手作業)に際し、腰背部に負荷がかかる。

ケガ状況 回復状況

ぎっくり腰、腰背痛で整体に通院(2回程度)

損害

ヒト

特になし(痛みはあるが、機械化等で対応)

モノ

特になし

カネ

特になし
(保険加入:JA共済、傷害保険)

時間 情報

特になし(経営者の離脱等は無し)

地域

特になし(地域行事・役職の参加は継続)

リカバリー内容

アシストスーツ(ゴム式)の試行を実施(検討中)。フレコン式への移行。もみの移送を軽トラ→2tダンプに移行。フォークリフトを全戸導入 等



事故事例⑩ 集落営農法人 水稻・かんしょ 落下事故

事故内容

オペレーターがコンバインから飛び降り落下

事故原因

急ぎ、焦りによる事故

この件以外にも、急いでいる時、フォークリフトにギアを入れたまま降りたところ、動き始めて足を挟んだことがある。

ケガ状況 回復状況

骨折(入院無し)



損害

ヒト

特になし(作業からの離脱無し)

モノ

特になし

カネ

特になし(加入していた労災・傷害保険で対応)

時間 情報

特になし(当事者は経営主以外であり経営的技術的指揮は継続)

地域

特になし

リカバリー内容

作業量:負担にならないように、人・作業を可能な量に割り振る。
 「ここまで(やって)」は言わない(ノルマが無理をさせる)。リスクを先に消す(減らす)。
 フレコンを早めに導入(3000袋)。

事故事例⑪ 梨 切創事故

事故当時の経営概要

経営者 57歳 労働力 家族3名

経営規模:果樹園3ha(梨)

事故内容

エア剪定ばさみで左手小指を部分切断

事故原因

なしの剪定作業時、剪定枝の陰にあった指を切った。
使用していたエア剪定ばさみは、にぎりがスイッチとなっており、指を挟んでも途中で止まらない。

ケガ状況 回復状況

左手小指第2関節付近を部分切断
現在は傷跡がやや残る程度に回復

損害

ヒト

特になし(当該地域では一説に半数程度の農家で同様なけがの経験があると言われており、一定の影響が考えられる)

モノ

特になし

カネ

特になし(電動式はさみへの更新)
労災保険加入、JA傷害保険保険加入(最高額) 主要な農機具にはそれぞれ保険加入

リカバリー内容

事故防止対策:電動式に変更。
草刈作業の安全指導実施。
経験の浅い従事者に対して、作業時に見回り注意点を指導。



時間 情報

特になし(指のけがは同時期に作業する枝誘因作業の際、ひもを縛ることが困難になり、作業時間が延びる影響が考えられる)

地域

特になし(果樹農家は棚上げなどの共同作業を行っており、様々な点で影響が考えられる)

事故事例⑫ 法人経営 果樹 切創事故

事故当時の経営概要 法人
 経営者 57歳 従業員7名
 経営規模:果樹園540ha、野菜1ha

事故内容

剪定ハサミによる軽いけが等

事故原因

園主妻が剪定作業時、棚が身長に対して高い位置にあるため、剪定枝が頭部に落下、額に軽傷を負った。別の年、エア式剪定はさみによる指切創事故も起こしている。

ケガ状況 回復状況

軽いけがのため、そのまま作業を続行



損害

ヒト

特になし(誘因作業からは離脱)

モノ

特になし

カネ

特になし
(傷害保険加入・労災保険加入)

時間 情報

特になし(経営主妻であり技術的
 経営的指揮は経営者が継続実
 施)

地域

特になし(地域行事は継続参加)

リカバリー内容

事故防止対策:剪定作業を行う従業員分のはさみを危険性の高いエア式から充電式に変更(7丁×@26万円)。剪定作業時は、厚手のゴム引き手袋、防寒長ぐつ、ゴーグル着用、ホイッスルを首からさげている。左手は出すなと指示。草刈作業時は、ヘルメット、耳カバーマスク着用。

外国人雇用事例 法人経営 畜産

経営概要 法人
経営者 九州地方 従業員7名
経営内容:畜産

外国人 雇用状況

東南アジア2～3か国から5名の特定技能

課題

インドネシア出身のムスリム女性のヒジャブ(ベール)
暑さ対策をするようにお願いするが拒否

対応内容

インドネシアの送り出し機関、日本の受け入れ機関、通訳を交え対策会議を実施。

農場はみな家族である(だからヒジャブを外してもよいのでは?)
と伝えても「家族じゃない」と主張。

「日本は暑いでしょう」と問いかけても次に「はずしなさい」と言われることをわかって、「インドネシアも暑い」と先手を打った受け答えをする。

今後の 対応

上記対策会議から、外す方向で動きつつある。

レースでできている風通しの良い生地の利用を検討中。



外国人雇用事例 法人経営 露地野菜

経営概要 法人
経営者 関東地方 従業員100名
経営内容:露地野菜

外国人 雇用状況

東南アジア5か国から40～50名

課題

- ①多言語の従事者に対する的確な作業指示
(マニュアルの多言語化)
- ②住まいの確保

対応内容

- ①これまでは、総務担当の職員(日本人)が多言語のマニュアルを作成。
 - ・カンボジア人の専属通訳を雇用。
 - ・記録用紙の項目をひらがなで作成するなど、馴染みやすい取組。

※当該農場はGAPの認定を受けている。
- ②できるだけ大家さんに好かれるように助言し、次の従業員(研修生)も受けれてもらえるよう努める。

最近の 対応

動画マニュアル編集ソフト(tebiki)を使って各国語で作成。
作業上の細かな注意点なども掲載。
※動画で見せて母国語で聞けることが理解しやすい。

